

学生スタッフによる自校学 DVD の制作

古川将大*1・糸山ゆう*2・玉城沙奈*3・溝上智奈美*4・稲富郁子*5・久家淳子*6・穂屋下茂*7

Email: 13312703@edu.cc.saga-u.ac.jp

- *1: 佐賀大学教育学研究科教科教育専攻
- *2: 佐賀大学理工学部機能物質化学科
- *3: 佐賀大学農学研究科生物資源科学専攻
- *4: 佐賀大学工学系研究科都市工学専攻
- *5: 佐賀大学経済学部経営・法律課程
- *6: 佐賀大学 e ラーニングスタジオ
- *7: 佐賀大学全学教育機構

◎Key Words 初年次教育, ICT 活用教育, 教材開発, 補助教材 DVD

1. はじめに

大学全入時代を迎え、多様な入学選抜試験により、入学してくる学生の学力や学修意欲が多様化してきている。高校教育から大学教育への「教育の質の転換」を図るために、初年次教育が導入されるようになった。佐賀大学全学教育機構でも、初年次教育として『大学入門科目』が開講されている。『大学入門科目』は『大学入門科目Ⅰ』と『大学入門科目Ⅱ』が開講され、前者は全入学生に対し必修となっている。これまで、『大学入門科目』の教育内容は全学的に共有されていなかったため、本学が掲げている教育の基本理念や教育方針、カリキュラム、大学の歴史、学生生活における注意事項等について触れない担当教員もいた。そのままでは、初年次教育で修得して欲しい主体的学び方法の要領を得ないまま、大学生活を送ってしまう学生もいることになる。

佐賀大学全学初年次教育部会では、前述した問題を解決するために、大学生活（学修）に必要な事柄を教育するのに必要な補助教材 DVD を制作して、『大学入門科目Ⅰ』の内容の共有化が図れる環境を構築することにした。そこで著者らは補助教材 DVD 制作の協力を行うことにした。本学では「デジタル表現技術者養成プログラム」を開講している。プログラムを修了した学生を中心にしたプロジェクトを組織して、この補助教材 DVD の開発を行うことにした。本稿では、コンテンツの特徴や教材開発のプロセスを説明し、特に「自校学」の補助教材 DVD 制作について報告する。

2. 教材の内容

補助教材 DVD は、本学の教育や学生生活に必要なタイトルで構成することにしており、本学が目指す学生の理想像や佐賀大学の歴史などについて学ぶことができる内容となっている。今回作成した教材のタイトルと内容を表 1 に示す。最終的には、15 項程度の補助教材を制作する予定である。今回制作するにあたり、著者らは、①スタートアップ、②学長からのメッセージ、③自校学を制作した。④エコアクション 21 と⑤図書館の活用法は、以前『大学入門科目』で使われていたものを一緒に DVD に取り入れることにした。

②学長からのメッセージは、インタビュー形式で学生から学長に質問をし、高校との違いや大学の特色、大学の意義や学長が学生に期待することについて話を伺う構成とした。③自校学は、佐賀大学創立までの経緯や本学の特色を学ぶ内容を取り入れている。④エコアクション 21 は、学生生活に重要な部分なので、留学生にも理解しやすいように英語字幕版も補助教材 DVD に組み込んだ。

表 1 『大学入門科目Ⅰ』DVD 教材の内容

タイトル	内容
①スタートアップ	教育方針、佐賀大学憲章、学士力カリキュラム、GPA 健康で充実した学生生活を送るための保健管理センターの利用
②学長からのメッセージ (インタビュー)	高校との違い、佐賀大学の特色 大学の果たすべき意義 学長が学生に期待すること
③自校学 (佐賀大学の歴史)	佐賀大学の歴史 学部の変遷、入学者数の変遷 学風、特徴、美術館建設について 学長からのメッセージ
④エコアクション 21	エコアクション 21 の取組み 家庭におけるゴミの出し方等
⑤図書館の活用法	図書館の活用法、図書館に行く前に 図書探し方等

3. 教材制作

3.1 教材開発の流れ

この教材開発に関して、(1)内容・構成の決定→(2)資料収集→(3)シナリオ作成→(4)シナリオ検討→(5)撮影→(6)編集→(7)確認→(8)修正→(9)完成 という手順で制作していった。まず、内容・構成については、教員と学生スタッフ、e ラーニングスタジオのスタッフと打ち合わせを行い、どのような教材にしていくかを検討した。おおまかな内容・構成を決めた後、それぞれのタイトルごとに担当を決め、制作にあたった。

資料収集は、本学広報室関係者や本学同窓会事務所に依頼した。その後、資料を参考に教材の内容やシナリオを作成した。思考錯誤しながら、様々な資料をもとに何度も改訂を行い、教材のシナリオを作成した。次に、本学学長や理事、教員らに撮影協力依頼を行い、完成したシナリオをもとに、映像の撮影をした。その後、編集作業を行い、何度も確認・修正作業をした後、最後にDVD作成をするという工程で制作を行った。

3.2 撮影・収録

今回補助教材DVDを制作するにあたり、各タイトルで撮影・収録が必要不可欠であった。各タイトル担当の学生スタッフが教員と連絡をとり、メールでスケジュールを確認後、直接教員と会って打ち合わせをした。打ち合わせでは、事前に送っていたシナリオや構成案を教員が確認し、適宜修正した。その後、撮影スタッフと教員のスケジュールを再度調整し、撮影した。

撮影は、学生スタッフとスタジオスタッフが教員の研究室を訪問し、撮影前の打ち合わせ、リハーサル後、本番の撮影をした。撮影機材は、カメラ2台と三脚2本、ピンマイクを準備した。音声は環境音や雑音がなるべく入らないように、内蔵マイクやガンマイクを用いず、ピンマイクを使用した。カメラの構図は、視聴者が落ち着いて観られるように、アイ・レベル、水平アングルで撮影をした。

学長インタビューは、広報室関係者を介して、学長と学生スタッフのスケジュールの合う日を調整し、撮影をした。学長インタビュー撮影は学長室で行い、再撮影ができないため音声トラブル等がないようICレコーダも用意した。また、カメラは、水平、ななめ横アングル、全体、インタビューア（アップ）の4台のカメラを使用した。しかし、撮影終了後に映像の確認を行うと空調の音や車の音などの雑音が大きく入っていたため、ノイズリダクションを編集で行った。撮影時は、騒音雑音にさらに注意を払うべきだと感じた。

今回、補助教材DVDを制作するにあたり、大学長、大学職員や教員等、多くの方に出演協力して頂くことができた。今回の学長室での撮影の様子を図1に示す。



図1 学長インタビューと収録作業

3.3 編集

映像の編集作業は、主に学生スタッフが行った。スタートアップでは、教育方針やカリキュラムなど、新入生がDVDをみて理解しやすいよう、色の配色や文字

の大きさ等を工夫して編集した。

自校学は、佐賀大学の歴史を説明する映像を作る必要があったため、広報室や同窓会事務所に資料提供を依頼した。そこで借りた膨大な数の資料（旧佐賀大学の校舎の写真や記念誌、昔の学生案内パンフレットや写真のネガ等）の中から、必要な情報を収集するのにとても苦労した。資料をスキャンし、写真をデータ化して、写真加工ソフトウェアのPhotoshopで写真を調整した。その後、ナレーションに合う写真を検討して、動画編集を行った。

また、旧佐賀大学の校歌や僚歌等が入ったカセットテープを、デジタルデータに変換する作業や入学者数の変遷グラフの制作にも大変苦労した。ナレーション収録は、動画編集作業と並行して本学のスタジオで行った。編集を終えた後、映像を何度も確認し、修正を少しずつ加えて教材を完成させていった。

編集作業では、学生スタッフが各担当のタイトルを編集するため、映像の配色や効果音、BGM等の規則、ルール決めをしっかりと行い、全てのタイトルが統一した形式になるように注意して作業を進めた。こうして制作した「自校学」の教材の完成画面例を図2に示す。



図2 制作した補助教材DVDの例

4. おわりに

以上から、今回制作した教材を利用することによって、初年次教育における『大学入門科目I』で、大学の基本理念や教育方針、カリキュラム、自校学等、統一した学習を教える事ができると考える。佐賀大学に來たばかりの教員や本学のカリキュラムや歴史について知らない教員は、教える事が難しいため、この補助教材DVDは十分に活用できると感じる。

今回制作した補助教材DVDは、48名の大学入門科目担当教員に配布した。利用した教員からは「科目の取り方の説明やカリキュラムガイダンスで利用できて有難かった」という声があった。今年度は4月になってDVDを配布したために、全ての教員に利用してもらうことができなかった。来年度は『大学入門科目I』のシラバスにDVD教材の利用を取り入れてもらえれば幸いである。今後は、更に充実した教材となるように更なる制作研究が必要であると感じている。

最後に、教材制作においてご出演して頂いた佛淵学長、瀬口理事、佐藤先生、諸泉先生、滝澤先生、また貴重な資料を提供して頂いた佐賀大学広報室、佐賀大学同窓会の皆様に心より感謝の意を表します。